

### シトラスリボンプロジェクトご存じですか?!

このプロジェクトは、コロナ感染者や医療従事者に対する差別や偏見をなくそうと作られたプロジェクトです。

私たちは、10年前の東日本大震災で大きな被害を受けました。つらい寒さの中、悲しさや先の見えないむなしさを抱えながらも、命の大切さを充分に感じ取り、風評被害や差別・偏見を受けつつも大震災を乗り越え、新しい生活環境を創ってきました。

そして今、また私たちの「ふだんの暮らし」を揺さぶっているコロナウイルス感染症。もはや、いつだって・だれだって・どこにいても感染のリスクはゼロではない社会となりました。

このプロジェクトは、私たちのために最前線で戦っている医療従事者やコロナ感染患者が、社会的差別を受けている現状があって立ち上がったプロジェクトです。

誰もが地域で笑顔の暮らしを取り戻せる社会を目指し、お互いが「ただいま」、「おかえり」と言い合える心地良い空気を創ろうという想いが、今1つの大きなプロジェクトとして動き出しています。

そして、このプロジェクトは、感染拡大を防ぐために自分自身の予防対策や行動変容の必要性や、誰もが少しでも心のびやかに暮らせるような地域の在り方を、私たちにも問いかけています。

誰もが恐怖や不安を持っています。だからこそ、コロナウイルス感染症に限らず、女川町全体が、お互いを思いやる気持ちを持ち、安心・安全が守られる地域となり、より良い社会へのつながりとなってほしいものです。

**現在、町内でもこのプロジェクトの趣旨に賛同し動き出そう・動き出している地域があります。**

**活動はそれぞれ違いますが、素敵な取り組みですね。**



シトラスリボンの3つの輪は 「地域」、「家庭」、「職場（学校）」を表現しています。誰もが暮らしやすい地域をつくることで、差別や偏見の広がりを防ぎ、みんなで協力して乗り越えることを目指しています。



### 「優しさと思いやりを広げる活動」

女川町民生児童委員協議会の取り組み

女川町民生児童委員協議会の土井会長さんのもとへ愛媛県からシトラスリボンの情報提供があり、定例会でプロジェクトの趣旨説明と取り組みについて話題提供がありました。

土井会長さんからは、『この取り組みが、普段の身近な方との会話の中で話題の一つになり、地域が安心・安全で暮らせる町となるように』、また、『今後は、地域の人々に優しさと思いやりの心を持つことを広げる活動を啓発していくことも必要となってくる』とのお話がありました。

誰かを想い、取り組む活動が地域に広がっていくのはステキなことですね。



## 『福祉活動推進員・民生児童委員から地域へ発信』 女川南区の取り組み

震災後、生涯学習課を通じて昭和女子大学の生徒と、交流を重ねてきていた女川南区は、今回、昭和女子大学から地域の中でシトラスリボンを話題にしてほしいとのお話があり、生涯学習課、加納氏による趣旨説明とリボンの作り方のレクチャーを受けて、取り組むことになりました。

福祉活動推進員や民生児童委員のシトラスリボン作成の活動を聞いて賛同された住民の方々と、「まずは、自分たちの地域へ発信していこう」と取り組みが始まりました。



女川南区の木村区長さんは、「これからの福祉活動推進員の活動として、地域の中で見守り活動をするうえでの声かけの際にきっかけづくりとして使っていければと考えています。」また、「皆さんの協力があってこそその取り組みですが、学校や医療・介護施設等へも広げられたらと思っています。」と話されていました。



コロナ禍の中ではありますが、地域活動とプロジェクトをうまくマッチングさせた取り組みです。

## 『シトラスリボンをアレンジして』

大原北区の取り組み



大原北区婦人部の役員の方々は、活動自体がコロナ禍で自粛しているなかで、このシトラスリボン活動にどのように取り組んでいこうかと試行錯誤していた際に、婦人部会員の鈴木洋子さんから自身の趣味でもある粘土細工でシトラスリボンのブローチを作ることを提案され、取り組むことにしました。

作ったブローチは、運動公園住宅にあるふれあいカフェ内で1個100円で販売されており、売り上げのお金はカフェへ寄付するという活動も行っています。

自分の得意なことや無理せずできることで、この活動を広げるという取り組み。「できる人ができることを」というコンセプトは、活動を続けるうえではとても大切な要素ですね。

大原北区でもシトラスリボンの取り組みが少しずつ広がっています。



人を想う心が、1つのプロジェクトとして立ち上がり、今や全国に広がっています。小さな力もたくさん集まるとやがて大きな力になる。人々が秘めた力強さを感じるこのプロジェクト、皆さんの地域でもはじめてみませんか。